

## 各教科の結果概要

### 1 各教科の平均通過率（県全体）

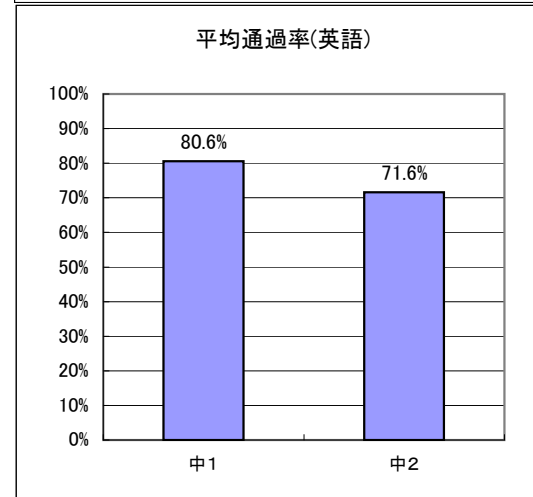
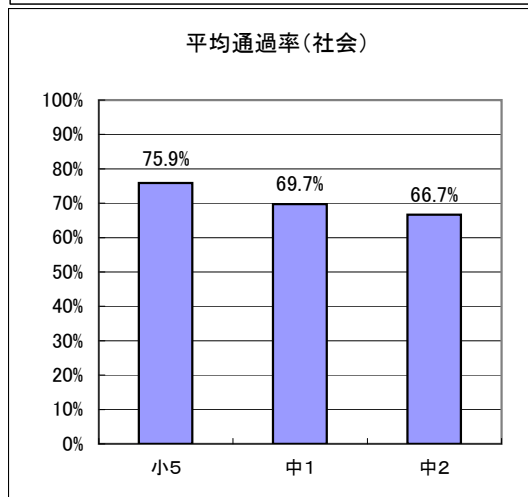
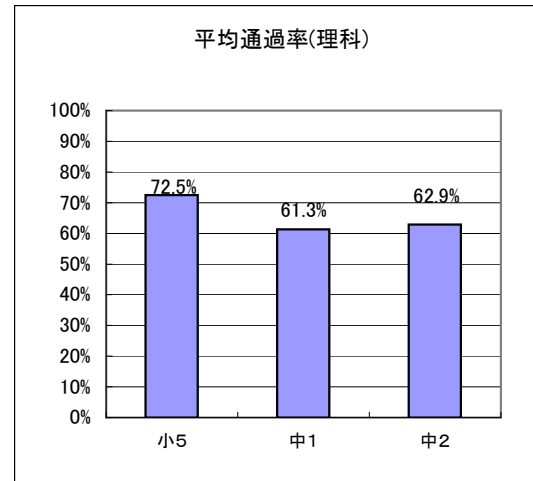
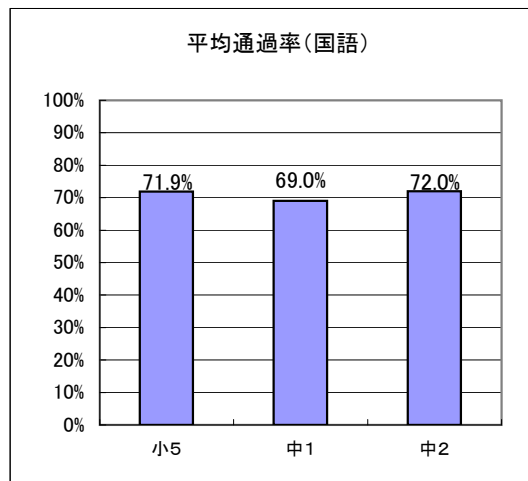
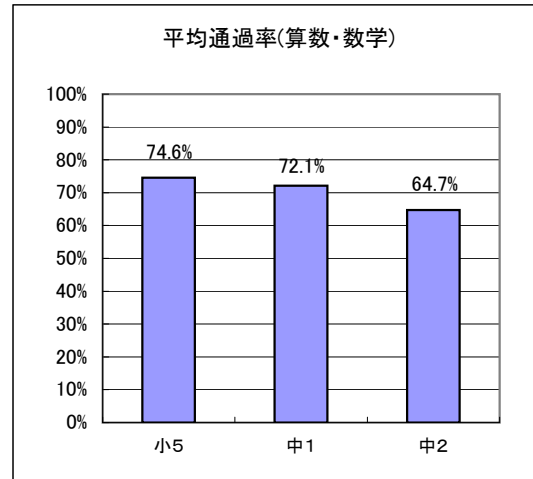
ここでは、各教科ごとに調査実施学年の平均通過率を示しており、本県の「基礎・基本」の定着状況の概要を、教科・学年ごとにみることができる。

(1) 全14調査中、目標平均通過率を達成したものが8調査であり、県全体では、昨年度から一定の改善が図られたと評価できる。他方、各教科や地区ごとにみると、改善のみられたものとみられないものの差が大きく、注意が必要である。

(2) 下記の、県としての全体的な課題・傾向については、依然として継続している。

(ただし、教科や地区によって差がある。)

- ・ 小学校段階の通過率は、すべての教科で目標を達成しているが、中学校段階では、学年の進行に伴い、学力の定着が十分に図られていない面がみられる。
- ・ 小学校・中学校段階に共通して、基礎的・基本的な知識・技能については比較的定着がみられるものの、それらを活用し、思考・表現する力が不十分である。



## 2 各教科の内容・領域及び観点別の平均通過率(県全体)

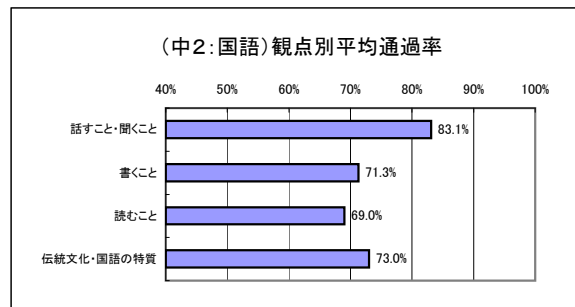
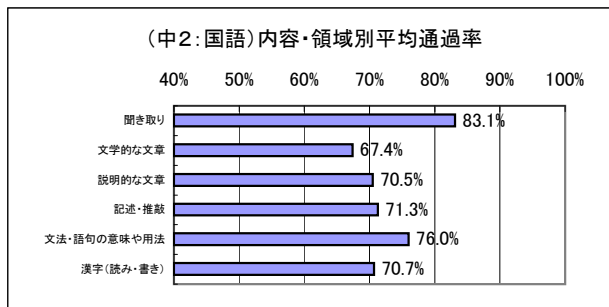
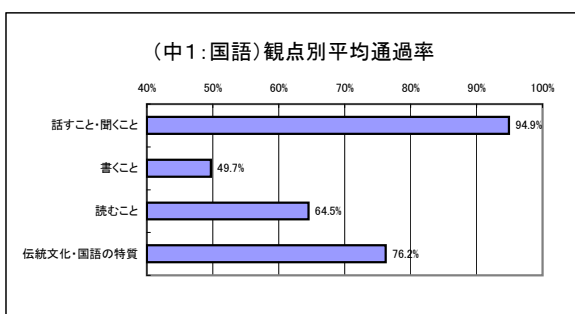
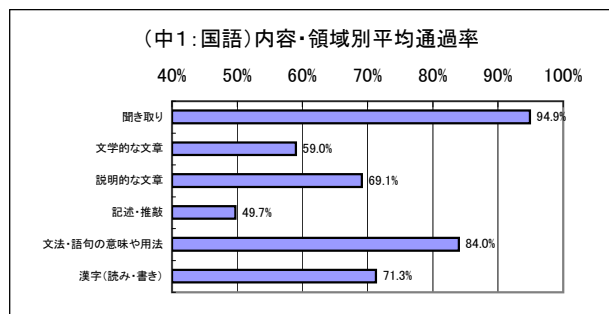
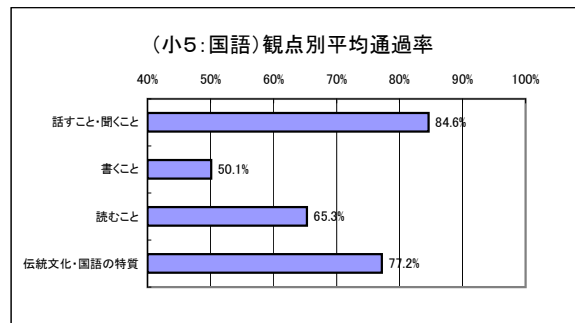
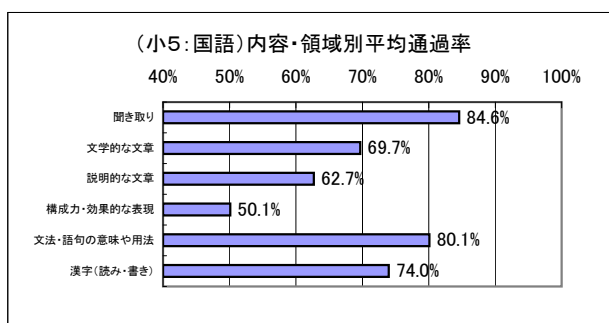
### (1) 【国語】

学年別平均通過率

小5 71.9%

中1 69.0%

中2 72.0%



#### 小学5年

全体の平均通過率は71.9%であり、概ね定着は図られているが、観点「書くこと」が50.1%、「読むこと」が65.3%の通過率にとどまった。

目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することなど、構成や記述に関する問題に対応できるような授業改善が必要である。

#### 中学1年

全体の平均通過率は69.0%であり、概ね定着は図られているが、観点「書くこと」が49.7%、「読むこと」が64.5%の通過率にとどまり、課題がみられた。

「読むこと」の文学的文章の内容理解や「書くこと」の推敲に関する問題について指導の充実が必要である。

意見文の内容を参考にして、納得できない理由について、グラフと関連付けて、意見や考えを記述するなどの問題に対応できるような授業改善が必要である。

#### 中学2年

全体の平均通過率は72.0%であり、概ね定着は図られているが、観点「読むこと」が69.0%にとどまった。

H16 と同一問題においても、概ね定着が図られているが、文法の品詞に関する問題は+8.8p に対し、活用形に関する問題は-2.8p など、改善を図る必要がある。

伝えたい事実や事柄を明確にして、構成を工夫することなど、構成に関する問題に対応できるような授業改善が必要である。

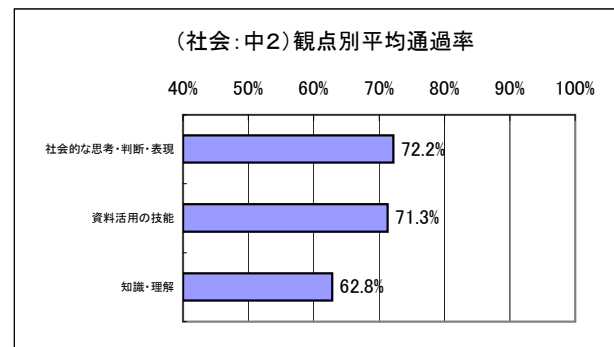
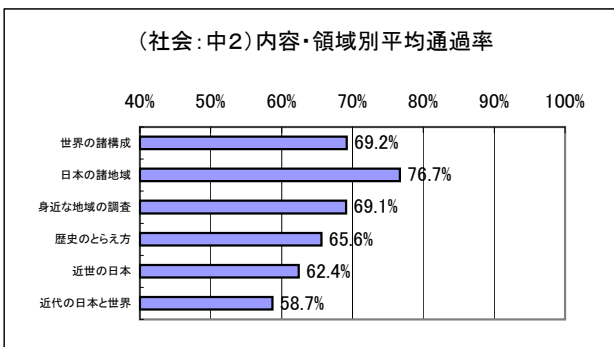
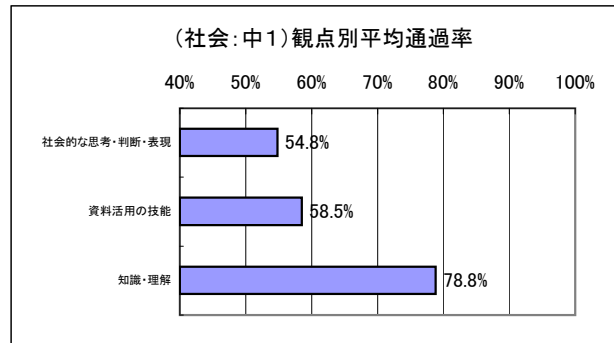
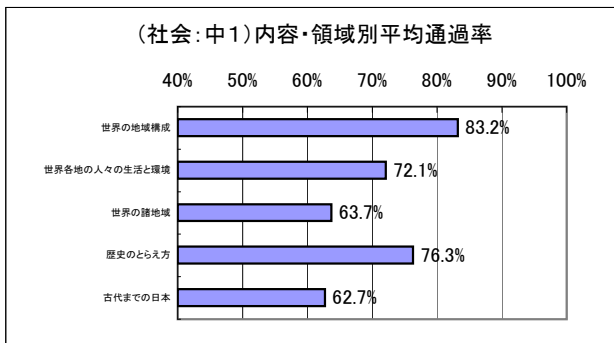
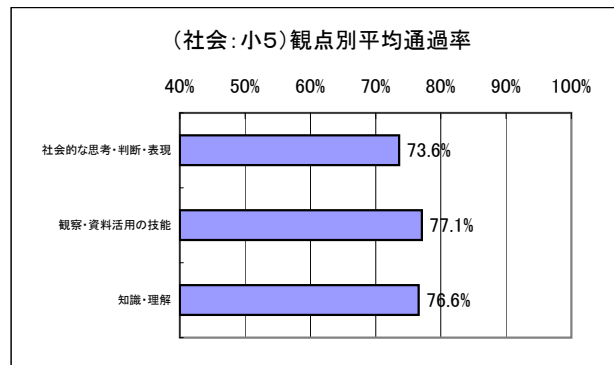
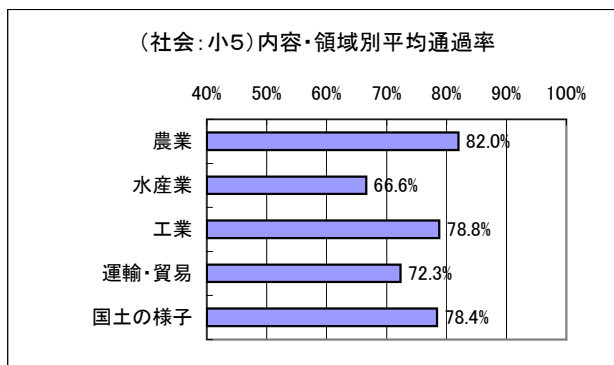
(2) 【社会】

学年別平均通過率

小5 75.9%

中1 69.7%

中2 66.7%



小学5年

内容・領域別では「水産業」以外，観点別ではすべての観点で通過率が70%以上であり，概ね定着している。

「水産業」では，枕崎漁港と年間水揚げ量の一番多い漁港との比較に関する問題（同51.2%）に課題がみられた。資料の読み取り等の基礎的・基本的な技能について，確実な習得を図る必要がある。

中学1年

内容・領域別では「世界の地域構成」，「世界各地の人々の生活と環境」，「歴史のとらえ方」，観点別では「知識・理解」の通過率が70%以上であり，概ね定着している。

「古代までの日本」では，古代文明のおこった理由の一つを記述する問題（同27.5%）に課題がみられた。複数の資料を基に考えさせたり，考えたことを基に表現させたりする工夫が必要である。

中学2年

内容・領域別では「日本の諸地域」，観点別では「社会的な思考・判断・表現」，「資料活用技能」の通過率が70%以上であり，概ね定着している。

「近代の日本と世界」では，香港の位置を答える問題（同38.1%）に課題がみられた。歴史的な事象が起こった場所の位置については，その都度，地図帳等を活用して確認させることが大切である。

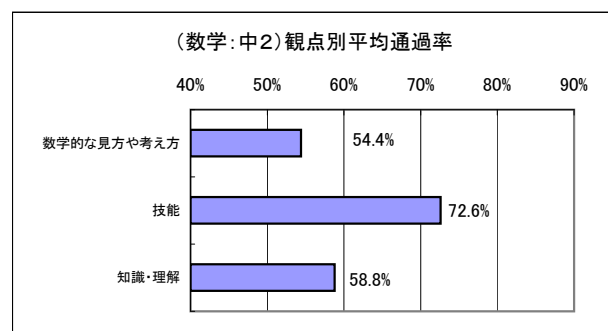
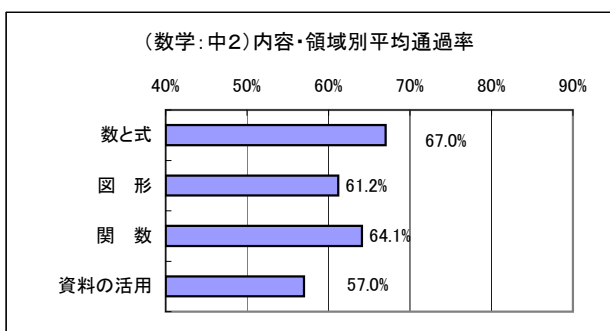
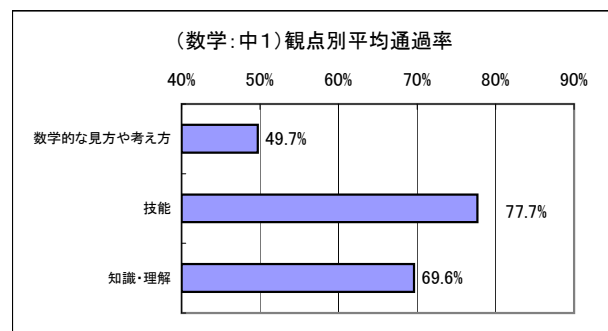
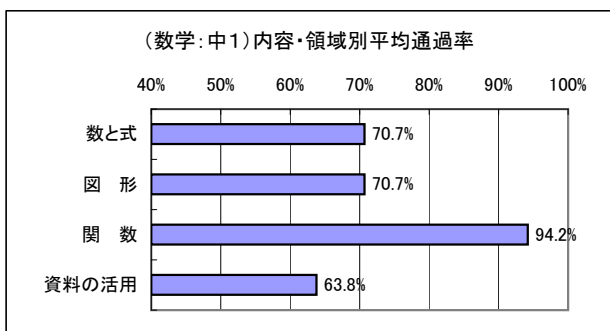
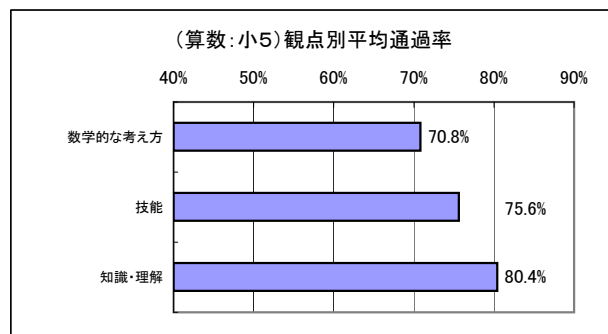
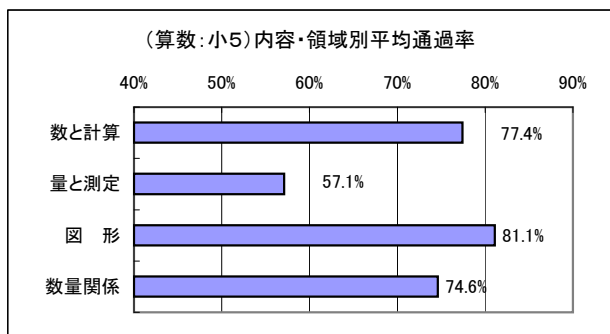
### (3) 【算数・数学】

学年別平均通過率

小5 74.6%

中1 72.1%

中2 64.7%



#### 小学5年

内容・領域別では、「量と測定」の領域に課題がみられるものの、観点別ではすべての観点で、通過率が70%を超え、概ね定着している。

「量と測定」では、台形の面積の求め方や必要な長さを読み取り立体の体積を求める問題、具体的な場面から、課題解決に必要な数量を読み取り、平均値を利用してある特定の数量を求める問題の通過率が低い。

「数学的な考え方」は、「規準にする大きさ」、「割合」、「割合に当たる大きさ」の関係を具体場面と式、線分図でとらえることや問題の流れの中から、必要な数量を読み取り、全体の量と平均値との関係をとらえ、特定の数量を求めることに対する指導が不十分である。

#### 中学1年

内容・領域別では、「数と式」、「図形」、「関数」、観点別では、「技能」が70%を超え、「知識・理解」が70%程度となり、概ね定着している。

「数学的な見方や考え方」は、事柄の中にある数量の関係をみつけ、その関係を不等式で表したり、割合の意味を理解し、度数分布表やヒストグラムから数値を読み取り、その考え方が正しい理由を筋道立てて説明することに対する指導が不十分である。

#### 中学2年

内容・領域別では、昨年度に比べ「関数」、「資料の活用」で一定の改善はみられるものの通過率70%を超える領域はなかった。観点別では、「数学的な見方や考え方」、「知識・理解」で通過率が60%にとどかなかった。

「数学的な見方や考え方」については、与えられた考え方を活用して数の関係が成り立つことを文字式を用いて説明したり、具体場面とグラフの関係について筋道立てて思考し、判断したりする力が不十分である。数学的な表現を用いて互いに自分の考えを表現し伝え合うなどの学習活動を積極的に取り入れることが大切である。

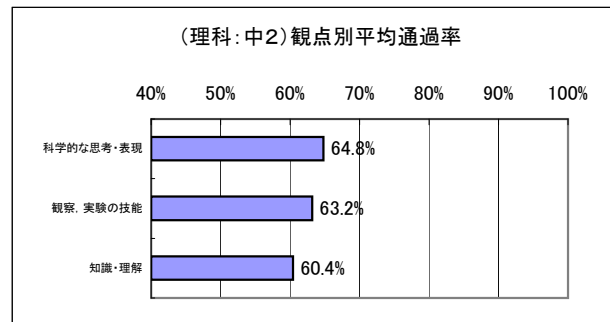
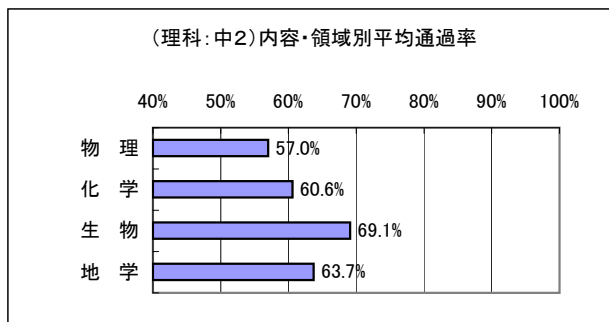
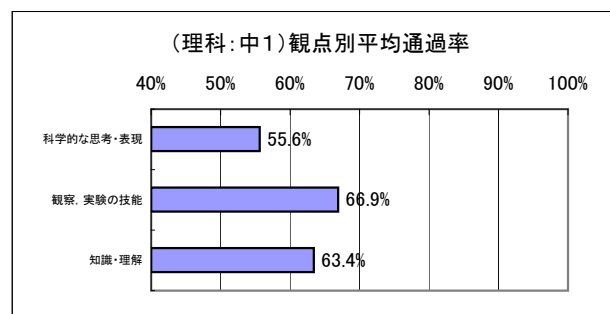
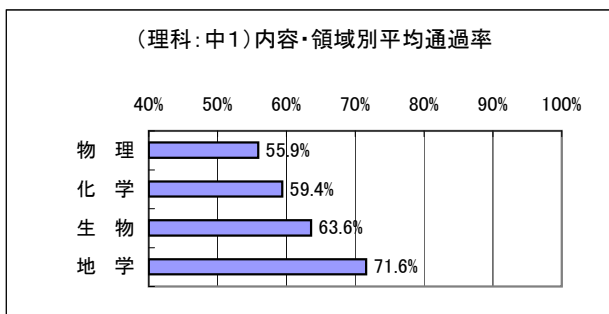
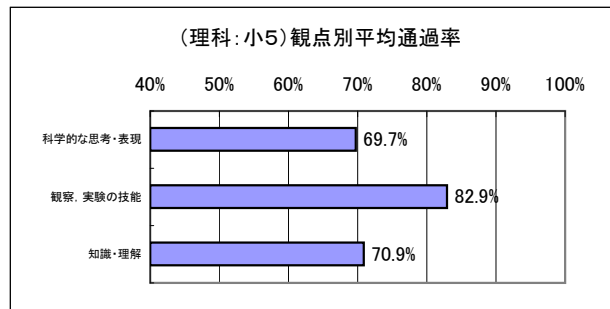
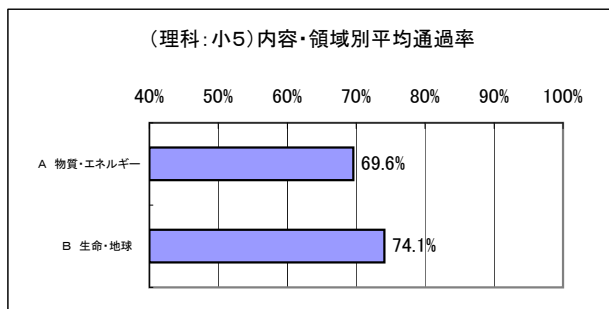
#### (4) 【理科】

学年別平均通過率

小5 72.5%

中1 61.3%

中2 62.9%



#### 小学5年

各内容・領域及び観点別の通過率は、いずれもほぼ70%以上であり、概ね定着が図られている。

水は加熱しなくても常温であれば自然蒸発することは、ほとんどの児童が解答できるが、日陰に置いた水の蒸発の仕方について予想に基づいた結果の見通しをもつ問では、26.4%の通過率であった。十分な思考を通さず、感覚的に答える傾向がある。予想に基づき、じっくりと考察する活動を充実させる必要がある。

#### 中学1年

技能面での改善が図られた一方、科学的な思考力を問う内容への対応が、引き続き大きな課題である。実験結果を整理し、考察する力が不足している。

特に、レンズを通してできる像の位置と大きさの関係や「物質の状態変化」に関する理解が不十分である。観察、実験で得られた結果をグラフ化したり、モデル図等で説明したりする活動を通して理解を深めさせていくことが大切である。

#### 中学2年

観点別では、「知識・理解」の通過率がやや低く、特に、基本的な用語や化学反応式などの知識を問う内容の通過率が低い。

物理・化学領域において、「質量」「圧力」などの計算を伴う内容の通過率が低い。NやPaなどの単位の意味をきちんと押さえる必要がある。「電気」の計算については、やや改善されてきている。

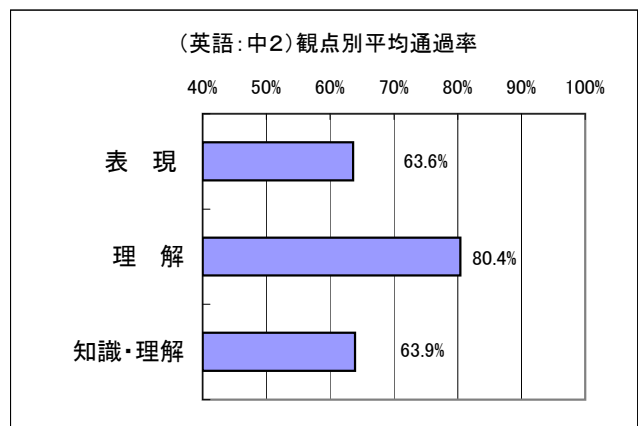
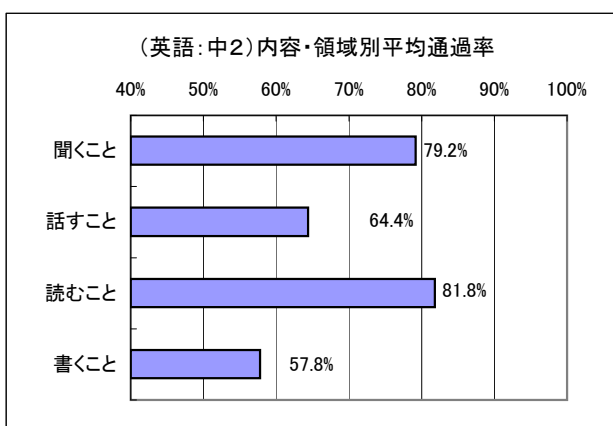
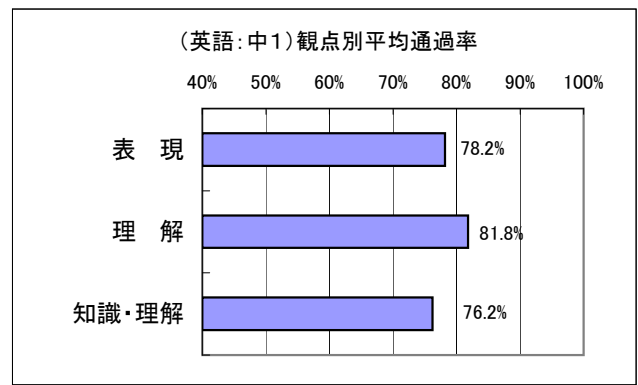
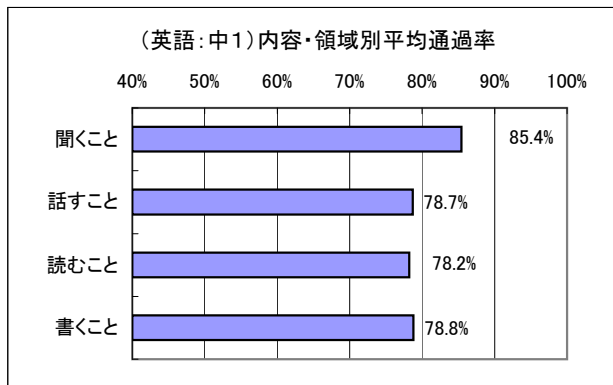
実験結果を計算やグラフ化等により、丁寧に分析して解釈することを通して規則性を見いだす学習活動を重視するとともに、学んだことと身近な事物・現象とを関連付けて理解し、科学的な言葉で説明できる力を育成する必要がある。

(5) 【英語】

学年別平均通過率

中1 80.6%

中2 71.6%



中学 1 年

「理解」については、通過率が 81.8%で、特に聞いて概要・要点を把握すること等については概ね定着が図られている。一方、「表現」については、通過率が昨年度の 71.7%から 78.2%と改善が図られたものの、「書くこと」などに課題が残る状況である。

「書くこと」では、自己紹介の英文を作成することには慣れてきている。しかしながら、授業等で頻繁に使われる基本的な語句や文構造などについて活用する力が不十分である。

(例) I know your (sister). (sister の記述 63.7%)

I (don't) play the piano. (don't の記述 68.4%)

疑問詞、代名詞、否定文等について類似の問題を出題しているが、定着度は不十分である。

(例) It is not my cat. (語句の並べ替え 62.4%)

中学 2 年

「理解」については、通過率が 80.4%で、聞いて適切に応答したり、読んで要点をとらえたりする力は定着しているが、一部通過率の低い設問もあることから指導が必要である。

「表現」及び「知識・理解」については、通過率が 63.6%、63.9%であり課題が残る。

語彙や文構造を試す問題においては、基本的な単語や wh-疑問文などの定着度が不十分である。

(例) She (has) a lot of books. (単語 has の記述 40.0%)

What food do you like? (語句の並べ替え 39.8%)

「書くこと」では、与えられたトピック「自分の好きな季節」については、通過率 55.8%、無答率 15.2% (6 問平均) であり、身近な話題について既習の言語材料を用いて、まとまりのある文章で表現する言語活動の工夫改善を図る必要がある。